

2025 年度 第 3 回 人間工学異分野連携交流サロンのご案内

日本人間工学会関西支部 支部長 有馬正和

日本人間工学会関西支部では人間工学の新たな応用分野を探るべく他分野との交流（人脈づくり、リアルな情報交換）を目的として「人間工学異分野連携交流サロン」を開催しています。本年度第 3 回のテーマとして「ロボットと人間工学」を取り上げます。

近年、ロボットは産業現場から生活領域まで広がり、AI の進化によりその役割は一層拡大しています。しかし、日本のロボット産業はかつての優位性を失いつつあり、産業用ロボットやソーシャルロボット、パワーアシストシステムなどの分野で課題が顕在化しています。本サロンでは「ロボットと人間工学」をテーマに、ロボット研究開発者から最新動向や課題を共有いただき、人間工学の視点から新たな価値創出の可能性を探ります。自由闊達な意見交換を通じて、技術と人間の協働を再考し、日本のロボット産業に活力を与えるヒントを見出す場となることを期待します。多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

－ 記 －

開催日時 : 2026 年 1月8日 (木) 13:30~17:00

会 場 : 大阪公立大学 I-site なんば (<https://www.omu.ac.jp/isite/access/>)

定 員 : 50 名程度 (社会人、学生、学会会員資格は問いません)

参加費 : 無料

開催プログラム :

13:30~13:35 開催挨拶 日本人間工学会 関西支部長/大阪公立大学 教授 有馬 正和

13:35~14:05 講演「人・ロボット系のシステム開発現状と今後の展望」 大同大学 吹田 和嗣

14:05~14:35 講演「社会課題解決に向けたソーシャルロボットの取り組み」 川崎重工業株式会社 蓮沼 仁志

14:35~15:05 講演「高齢者や女性が成人男性並みに力仕事をできる装着ロボットの普及」 PAI 八木 栄一

15:05~15:15 休憩

15:15~16:15 パネルディスカッション

16:15~16:45 フリートーク (座談会)

16:45~16:50 閉会挨拶

※ 17:00 以降 なんば駅周辺で懇親会を予定しています

申込方法 : 表記リンクもしくは QR コードから申し込んでください。

<https://forms.office.com/r/eSvau4ZFgb>



※ 本サロンはどなたでも自由にご参加いただけます

問い合わせ先 : 日本人間工学会関西支部 企画幹事 志子田 繁一 (しこだ しげかず)

川崎重工業株式会社 技術開発本部 システム技術開発センター

電話 078-921-1750 E-mail : shikoda_s@global.kawasaki.com

主催 : 日本人間工学会関西支部

【講演詳細】

講演「人・ロボット系のシステム開発現状と今後の展望」

大同大学 吹田 和嗣 様

(概要)

すでに深刻化している少子高齢化社会への対応として、ロボット応用の重要性とその期待が示されている。ロボットの利活用を加速させたいが、社会定着できるレベルと現状にテクノロジーギャップがあり、多くの研究者が取り組んでいる。この中で人中心のロボットシステム適用の現状と課題について紹介する。あわせて、ウェルビーイング性を踏まえたロボティクス研究と開発についても解説する。事例としてリアルタイム性を考慮したCPSの活用（モバイルマニピュレーションロボットとの協調）、サービスロボット運用における人とロボットのコミュニケーションの重要性とその方策および実証事例を紹介する。今後の社会課題に対応するために人とロボット系におけるダイバーシティ設計と人間工学の重要性についても議論したい。

講演「社会課題解決に向けたソーシャルロボットの取り組み」

川崎重工業株式会社 蓮沼 仁志 様

(概要)

AIや情報通信技術と融合した人間中心社会の実現に向け、ソーシャルロボットの導入事例を通じて、地域格差・高齢化・労働力不足などの社会課題への貢献可能性を示します。人とのインタラクションや共存環境での活動を前提に、遠隔制御と自律制御の役割分担や遠隔制御データの学習資源としての活用など、人間工学的観点からの取り組みを紹介し、AI技術の安全性評価やガイドライン策定の重要性、今後の社会実装への展望について述べます。

講演「高齢者や女性が成人男性並みに力仕事をできる装着ロボットの普及」

パワーアシストインターナショナル 八木 栄一 様

(概要)

農業・介護・建設・物流等で働く作業員向けに、ファッション性が高く、人間に優しく、人間が使い易く、一日中装着でき、不足している力を的確にアシストするパワーアシストスーツを提供する。具体的には10秒で装着でき、モーションセンサーで装着者の動きを素早く検出し、モーターでスムーズに必要な力を支援するロボットを提供する。高齢者や女性の疲労が軽減され現役と同等に労働でき、暮らし易くよりよく生活できる社会を実現する。